

学校概要2025

国立舞鶴工業高等専門学校

National Institute of Technology (KOSEN), Maizuru College



NIT, Maizuru
KYOTO

教育理念

広く工学の基礎と教養を身につけ、
問題発見・解決能力、創造力を有し、
地域・社会の発展に寄与できる国際感覚豊かな
実践的開発型技術者を育成する。

教育方針

- I 実験・実習、演習、ものづくりを重視する
- II 基礎に立ち返って考えさせる
- III 自ら学ぼうとする意欲を育てる
- IV 豊かな教養と国際性を育む

校長挨拶

本校は、科学技術立国「日本」を担う高度技術者を
育成する国立の高等教育機関です。

本科は、早期からの5年一貫の「ものづくり教育」
により、実践力と創造力を身につけた人材を、
専攻科ではより専門性を深化させた人材を輩出
しています。

校長
林 康 裕



「将来性豊かで多様な進路」

本校は、京都府にある唯一の国立高専として1965年に発足し、
多くの優秀な人材を育成してきました。「ものづくり」を重視した
教育によって輩出された多くの優秀なエンジニアは、京阪神地区を
はじめ全国の産業界などで活躍されています。本校卒業生は、創造
力と協調性を併せ持つ高度技術者として産業界でも高く評価され、
超氷河期といわれた就職難のときや、近年の新型コロナウイルス感
染症の蔓延という社会状況においても高い求人倍率となっています。
また、卒業生の半数程度が希望する国立大学や高専の専攻科に
進学しています。

本校の確かな「ものづくり教育」は産業界で広く認知され、卒業
生は、科学技術立国として「Society5.0」を担う高度技術者として
活躍しています。また地域の課題を基礎に立ち返って考え、自ら
学び考え、問題を解決するソーシャルドクター、地域振興を進める
ソーシャルイノベーターとして活躍が期待されています。

「広い地域からの入学生」

本校は舞鶴市にありますが、京都府、滋賀県、兵庫県、大阪府、
福井県を始めとして全国から多くの学生が入学しています。そのた
めに、学習環境と生活環境が整った全国の国立高専で最大規模の学
寮が設置され、約600人の寮生を収容しています。女子学生数の増
加に対応し、女子寮の整備も進んでいます。

「信頼と安心の教育と進路指導」

本校は、教える教員と学ぶ学生との信頼関係に基づいた教育を行
うことを重視しています。本科は4学科で構成され、各学科の定員
は40人となっています。担任と各科目担当教員はクラスの学生と
親身に対話することを心がけています。また、修学支援室を設け
て、様々な相談にチームを組んで対応しています。このことは中学
校・高校では当たり前のことですが、大学などではあまりないこと
です。これは全人教育の観点から重要なことと考えています。

国立高専は、海外にはない教育機関で、KOSENとして世界から
注目を集めています。本校でも、国際性豊かな技術者を育成するこ
とを目標に、海外の多くの大学と連携して、現地学生との交流やイ
ンターナシップを実施しています。

また、本校は、学生のキャリア教育に力を入れています。イン
ターンシップや企業説明会などを開催するなど、学生の進路指導に
定評があります。就職希望者には学校として組織的に対応すると共
に、専門性を深化させたい進学希望者のほとんどが、国立大学や本
校専攻科など、志望にそって進学しています。

「地域との連携強化」

本校は、近畿地域北部のものづくりが盛んな地域に位置してお
り、技術・開発力を活かした産業が展開しています。舞鶴市や高浜
町などの自治体と共に、北近畿や京都府の企業の協力会「舞鶴高専
地域テクノアカデミア」などを通じて、地域との連携を深めていま
す。地域や社会の実問題を題材とした教育・研究を行うことで、学
生の問題発見能力と問題解決能力を養っています。

校章



金色の円弧は日本海に面する良港を表し、
港湾工業都市として海と深く関わり合い
ながら発展する舞鶴を象徴している。円
は円満の相で完全さを想わせ、港口の開
きは積極性と向上発展を示している。

(京都工芸繊維大学

福永俊吉名誉教授 考案)

ロゴマーク



中央のアーチは MAIZURU(舞鶴)の「M」
を、その下は舞鶴湾を中心とした日本海
を表しています。アーチの中心が舞鶴高
専でありアーチは世界の架け橋を示して
います。これは本校の教育理念である国
際性・産業の繋がりを表しています。

(舞鶴工業高等専門学校

卒業生 竹野峻輔 考案)

マスコットキャラクター



愛称：コウちゃん

舞鶴市の歴史遺産である赤れんがを
モチーフとしたユニフォームを着て、
右手には工具をもち、世界に羽ばた
くことを夢見る子どもの鶴をイメー
ジしています。

(舞鶴工業高等専門学校

卒業生 山下真依 考案)

学校旗



学校紹介



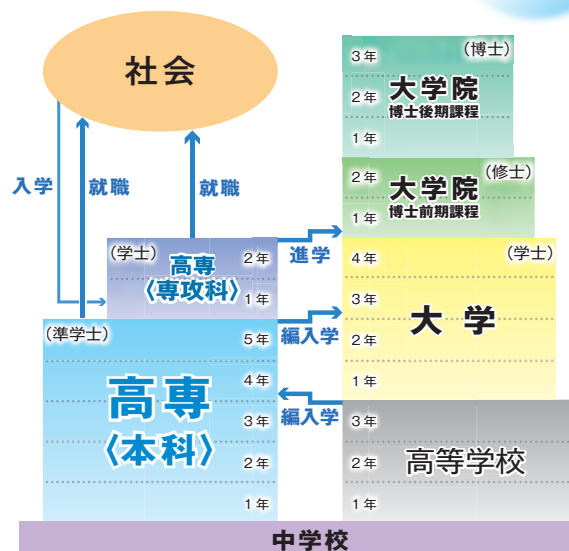
1 本校の教育

組織・教職員数



本校は、昭和40年（1965年）に設置され、これまでに7,787名の卒業生を世に送り出してきました。本科は、現在、4学科（機械工学科、電気情報工学科、電子制御工学科、建設システム工学科）で構成されています。低学年（1・2年）は4学科混合のクラス編成であり、一般教養と専門基礎の教育を行っています。高学年（3～5年）では学科ごとのクラス編成となり、実践的な専門教育を行っています。専門教育では、従来型の講義や実験・実習・演習だけでなく、様々な問題解決型の授業も行っています。本科では、このような5年間一貫教育により、専門的な問題を解決することができる実践的かつ創造的な技術者を育成することを目指しています。

平成12年（2000年）には、さらに専門性を高めるために、2年間の専攻科が設置され、現在、総合システム工学専攻の3コース（電気電子システム工学コース、機械制御システム工学コース、建設工学コース）で構成されています。専攻科では、融合複合的な教育を行うことにより、国際社会で力を発揮できる中核的技術者を育成することを目指しています。



1 本校の教育

2 沿革概要

2 沿革概要

昭和39年12月28日	京都府舞鶴市に舞鶴工業高等専門学校を設置することが決定
昭和40年 1月18日	京都大学本部に舞鶴工業高等専門学校設立準備会を設置
昭和40年 4月 1日	国立学校措置法の一部を改正する法律(昭和40年法律第15号)が公布され、機械工学科2学級及び電気工学科1学級を置く舞鶴工業高等専門学校を設置
昭和40年 4月26日	開校式並びに第1回入学式を舞鶴重工業体育館において挙行し、舞鶴市平の旧舞鶴引揚援護局の施設を仮校舎及び仮寄宿舎として開校
昭和41年 3月28日	校舎、寄宿舎(第1期)工事竣工
昭和41年 3月29日	仮校舎及び仮寄宿舎から本校舎及び本寄宿舎に移転
昭和45年 4月 1日	土木工学科1学級を増設
昭和55年 3月31日	第2体育館新営工事、第2グラウンド整備工事(12,269平方メートル)及び武道場増築工事竣工
昭和56年 9月30日	普通教室新営工事竣工
平成 2年 4月 1日	機械工学科2学級を機械工学科1学級、電子制御工学科1学級に改組
平成 5年 3月31日	電子制御工学科棟新営工事竣工
平成 6年 4月 1日	土木工学科を建設システム工学科に改組
平成12年 4月 1日	専攻科(電気・制御システム工学専攻、建設・生産システム工学専攻)を設置
平成12年 4月 7日	第1回専攻科入学式を挙行
平成13年 1月22日	低学年棟・地域共同テクノセンター新営工事竣工
平成14年 3月26日	専攻科棟新営工事竣工
平成14年 4月 1日	第1学年について混合学級を編成
平成16年 4月 1日	独立行政法人国立高等専門学校機構が設置する高等専門学校となる
	電気工学科を電気情報工学科に名称変更
平成16年12月22日	MIRECと学術交流協定を締結
平成17年 5月12日	教育プログラム「生産・情報基礎工学」がJABEEから認定
平成17年12月22日	タイ キングモンクット工科大学ラカバンと国際交流協定を締結
平成18年 4月 1日	建設システム工学科に都市環境系科目履修コースと建築系科目履修コースを導入
平成18年 4月28日	韓国 高麗大学と国際交流協定を締結
平成18年 9月 8日	中国 大連職業技術学院と交流協定を締結
平成18年 9月26日	台湾 国立高雄第一科技大学(現 国立高雄科技大学)と交流協定を締結
平成19年 3月28日	京都大学大学院工学研究科と教育研究交流協定を締結

平成19年 3月30日	京都工芸繊維大学と包括協定を締結
平成19年 5月10日	大阪大学工学部・大学院工学研究科と教育研究交流協定を締結
平成20年 3月 3日	ベトナム 交通運輸大学と学術交流協定を締結
平成20年 3月11日	京都北都信用金庫と産学連携に関する協定を締結
平成20年 9月15日	ベトナム ハノイ建設大学と学術交流協定を締結
平成20年12月 1日	JSTイノベーションプラザ京都と産学連携に関する覚書を締結
平成23年 9月13日	近畿4高専と京都2校との間に学術協定を締結
平成24年 1月30日	北陸先端科学技術大学院大学と推薦入学に関する協定を締結
平成25年 5月16日	丹後機械工業協同組合と産学連携に関する協定を締結
平成25年10月 1日	舞鶴市と包括的連携協力に関する協定を締結
平成26年 1月23日	社会基盤メンテナンス教育センター設置
平成27年 4月 1日	専攻科を総合システム工学専攻に改組
平成27年 5月15日	兵庫県立大学大学院シミュレーション学研究科と推薦入学に関する協定を締結
平成28年 3月31日	京都府、京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都学園大学、京都文教大学、京都大学と、地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)に係る連携・協力に関する協定を締結
平成28年 5月20日	兵庫県立大学大学院応用情報科学研究科と推薦入学に関する協定を締結
平成28年12月 1日	兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科と推薦入学に関する協定を締結
平成29年 9月 1日	近畿地区6高専と災害等における相互応援に関する協定を締結
平成30年 4月 1日	早稲田大学大学院情報生産システム研究科と推薦入学に関する覚書を締結
平成30年 6月15日	和歌山大学システム工学部と第3学年次編入学の情報提供に関する協定を締結
平成30年10月10日	養父市と社会インフラ維持管理連携協力に関する協定を締結
平成30年12月19日	舞鶴市、KDDI株式会社との地域活性化を目的とした連携に関する協定を締結
令和 元年11月 1日	英国 ボーツマス大学と学術交流に関する覚書を締結
令和 2年 4月 1日	京都府と就職支援に関する協定を締結
令和 3年 6月30日	福知山公立大学と包括的連携協力に関する協定を締結
令和 4年 9月15日	国際協力機構(JICA)と道路アセットマネジメントに関する覚書を締結
令和 6年 2月14日	ものづくりラボ運用開始
令和 6年 4月 2日	高浜町と包括的連携協力に関する協定を締結

3 学科・部門

詳しくはこちら



機械工学科

工業の基礎を支える技術と知識と総合的な応用力を持つ技術者を育成します。

機械工学という学問は、あらゆる「ものづくり」の基盤をなすもので、多種多様な知識を必要とする分野です。本学科における専門科目は、材料分野、エネルギー分野、流体分野、計測・制御分野など多岐にわたっています。また、学生たちは、工作実習、設計製図、創造設計製作、機械工学実験といった実験・実習系科目により実践的かつ創造的技術力を身につけることができます。

卒業生の多くは、自動車、航空機、産業機械、食品、医薬品、機械部品など非常に広域な分野の製造・設計・開発部門などで活躍しています。



エンジンの分解組立実習



創造設計製作

電気情報工学科

高度な情報化社会の実現を目指し、様々な社会ニーズに対応できる技術者を育成します。

本学科では、ICTの高度化と社会への適用拡大に対応し、電気・電子および情報・通信分野の要素技術やパワーエレクトロニクス、ネットワーク等の先端技術、画像処理技術などを広く学びます。また、PBLによる分野横断的教育を取り入れたカリキュラムにより、社会ニーズに対応できる技術者を育成しています。卒業後は、電気電子・情報通信関連企業を中心に幅広い業種に就職する機会があり、研究開発、設計、製造、ソフトウェア開発など適性に合わせた職種を選択できます。専攻科に進学や大学に編入する学生も増えており、専攻科や大学を卒業後に大学院を目指す学生もいます。



電気情報概論(1年)



創造工学(4年)

電子制御工学科

機械系、電気電子系、計測制御系及び情報系の幅広い分野を勉強した、メカトロニクス技術者を育成します。

本学科では、私たちの身近にある家電製品や自動車、工場等で稼働するロボットや製造装置等の様々な「モノ」の高性能化、知能化を実現するメカトロニクス技術者を育成します。本学科では、メカトロニクス分野（機械、電気電子、計測制御、情報の4分野）の専門領域を基礎から応用までバランスよく学ぶことができます。また、各学年においてロボットを題材とした問題解決型学習（PBL）の実験・実習科目を配置しています。卒業後はメカトロニクス分野を中心に幅広い業種に就職しており、卒業生の半数程度は国立大学や専攻科に進学しています。



創造設計プロジェクト(4年)



メカトロニクス演習Ⅰ(1年)

建設システム工学科

建設システム工学科は、くらしの基盤を守る技術者を育成します。

建設事業は、自然環境を守り、豊かで暮らしやすい生活を維持していくことを目的としています。そのため、橋、高速道路、上下水道、ビル、住宅や街づくり等の社会基盤の整備を行っています。また、地震や洪水などの自然災害に対する防災・減災の対策も建設の仕事です。

本学科は、土木・建築分野を主な対象として、社会基盤整備や防災・減災対策を行うことができる中核的技術者の育成を目指しています。本学科の卒業生は、官公庁、JRなどの公益企業、建設会社、建設コンサルタント、建築設計事務所、ハウスメーカーなどで活躍しています。



デザインコンペティションでのプレゼンの様子



公共建築デザイン事例

人文科学部門

人文科学部門では、高校から大学教養段階までの内容を含んだ授業を展開しています。国語、英語、その他の外国語の習得は、コミュニケーション能力を高め、日本と世界についての知識を深めてくれるでしょう。歴史総合、人間論は、自分が何者であるかを理解する助けになり、公共、法学、現代社会、哲学は、人生の困難な問題に取り組むときに指針を与えてくれます。こうした人文科学部門の授業は、技術者として働く時だけでなく、ますます国際化の進む社会において、良き市民として生きる際にも、少なからず役に立つものです。



古典グループワーク



人文特論ⅢAでのフィールドワーク

自然科学部門

自然科学部門では、高校と大学の理系科目にあたる数学・理科・体育の科目群を再編し、人間性と一般教養の涵養、また専門科目に対する基礎の充実を目的として、カリキュラムを組織しています。国立高専では、学生が身に着けるべき知識や能力の具体的な到達目標をモデルコアカリキュラムとして定めており、自然科学部門の数学・理科では、このモデルコアカリキュラムに沿った教育を行っています。体育では、全学年において、体力、技能の向上、また生涯にわたってスポーツに親しむための基礎づくりのできるカリキュラムになっています。



授業の様子



授業の様子

4 専攻科

総合システム工学専攻

準学士課程での5年間の実践教育をベースに、より深い専門的知識と幅広い視野を持った技術者の育成を目標としており、2年間の専攻科課程を修了した学生は、大学改革支援・学位授与機構から学士（工学）の学位が授与されます。本校専攻科では、「総合システム工学専攻」に3つのコースを設置し、融合複合技術に対応しつつ、各コースでの専門分野の知識と技術を深めます。そして、問題解決能力を養い、国際社会で力を発揮できる豊かな人間性・創造性を備えた中核的技術者を育成します。

■ 電気電子システム工学コース

高等専門学校準学士課程等で修得した基礎学力と専門知識に基づき、電気電子工学およびその周辺分野に関わる、より高度で実践的な最新の技術教育を行い、地域社会に貢献できる独創性豊かな研究開発型の技術者の育成を目指します。

■ 機械制御システム工学コース

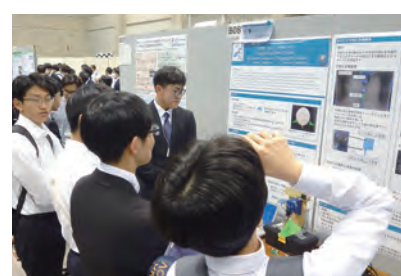
高等専門学校準学士課程等で修得した基礎学力と専門知識に基づき、機械工学およびその周辺分野に関わる、より高度で実践的な最新の技術教育を行い、地域社会に貢献できる独創性豊かな研究開発型の技術者の育成を目指します。

■ 建設工学コース

高等専門学校準学士課程等で修得した基礎学力と専門知識に基づき、土木工学、建築学およびその周辺分野に関わる、より高度で実践的な最新の技術教育を行い、地域社会に貢献できる独創性豊かな研究開発型の技術者の育成を目指します。



インターンシップ報告会



学会での研究発表

5 学生の概要

収容定員及び在学者数



学生の入学定員、収容定員及び在学者数

学 科	入学定員	収容定員	1年	2年	3年	4年	5年	計
機械工学科	40	200	39	44	30	38	31	182
電気情報工学科	40	200	43	44	38	42	32	199
電子制御工学科	40	200	42	45	33	34	30	184
建設システム工学科	40	200	42	40	39	44	25	190
合 計	160	800	166	173	140	158	118	755

専 攻	入学定員	収容定員	1年	2年	計
総合システム工学専攻	16	32	20	16	36
電気電子システム工学コース			8	6	14
機械制御システム工学コース			9	4	13
建設工学コース			3	6	9

令和7年4月1日現在(単位:人)

出身府県別学生数

学 年		府 県						合 計
		京 都	福 井	兵 庫	滋 賀	大 阪	そ の 他	
本 科	1学年	80	5	30	33	14	4	166
	2学年	78	2	29	46	16	2	173
	3学年	63	4	25	25	13	7	137
	4学年	86	3	28	16	16	7	156
	5学年	55	3	22	22	8	7	117
	合 計	362	17	134	142	67	27	749
専攻科	1学年	13	0	2	3	1	1	20
	2学年	6	1	5	3	1	0	16
	合 計	19	1	7	6	2	1	36
総 計		381	18	141	148	69	28	785

※留学生(6名)は除く

京都府内出身地域別在籍学生数

丹後地区	舞鶴市	中丹地区	京都市	南丹地区	乙訓・山城地区	合計
26	96	29	90	51	89	381

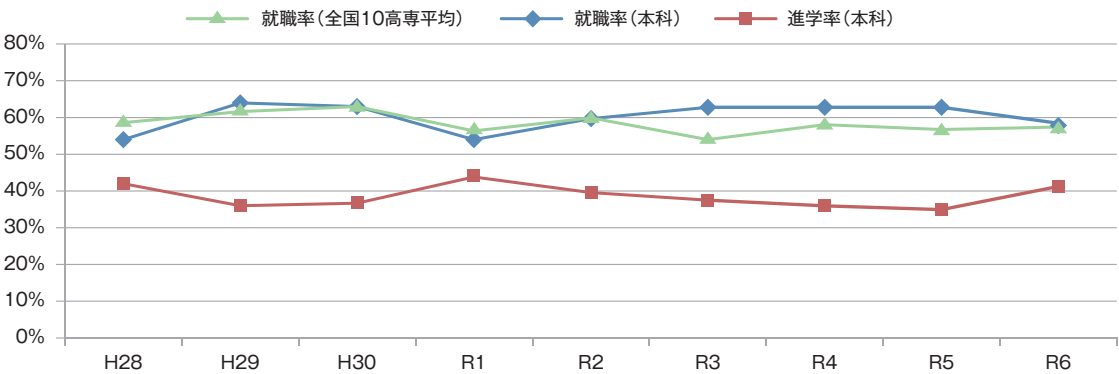
令和7年4月1日現在(単位:人)

6 進路状況

進路関係



就職と進学割合



就職先（過去5年間抜粋）

■ 機械工学科

- 川崎重工業
- ダイキン工業
- 三菱電機
- ヤマハ発動機
- 旭化成
- サントリー
- ヤンマーホールディングス
- 任天堂
- 本田技研工業
- オムロン
- 小松製作所
- クボタ
- ENEOS
- JT日本たばこ産業
- GS ユアサ

■ 電子制御工学科

- ファナック
- 三菱電機
- 平田機工
- 関西電力
- 村田製作所
- アイリスオーヤマ
- ダイハツ工業
- NHKテクノロジーズ
- USJ
- タカラトミー
- ディスコ
- イシダ
- DMG森精機
- JALエンジニアリング
- 日野自動車

■ 電気情報工学科

- パナソニック
- 堀場製作所
- 三菱電機
- 日新電機
- 富士電機
- 京セラ
- 日東精工
- テルモ
- オプテージ
- NTTコムウェア
- アイテック阪急阪神
- TOA
- ローム
- GSユアサ
- NECネットエスアイ

■ 建設システム工学科

- 西日本高速道路
- 西日本旅客鉄道
- 大和ハウス工業
- 関西電力
- NTTインフラネット
- URリンケージ
- 一条工務店
- 住友不動産
- Daigasグループ
- 竹中工務店
- 阪急阪神不動産
- 鹿島建設
- 五洋建設
- 国土交通省近畿地方整備局
- 公務員
(舞鶴市、京都府、大津市)

【順不同】

進学先（過去5年間）

■ 本科卒業生

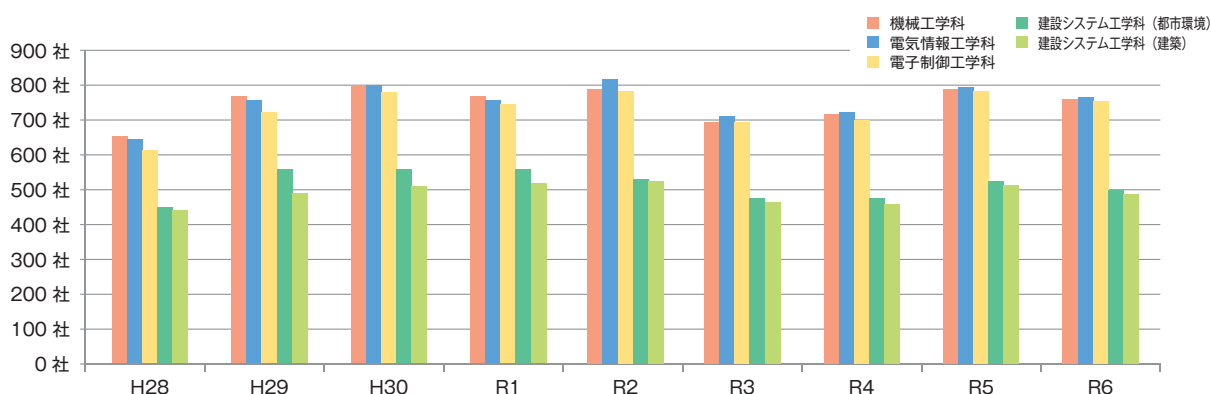
- | | |
|---------------------|--------------------|
| 国立 北海道大学 (2) | 国立 大阪大学 (6) |
| 東北大学 (3) | 神戸大学 (1) |
| 千葉大学 (3) | 奈良女子大学 (3) |
| 東京大学 (1) | 和歌山大学 (2) |
| 電気通信大学 (1) | 島根大学 (1) |
| 筑波大学 (1) | 広島大学 (2) |
| 新潟大学 (1) | 岡山大学 (7) |
| 長岡技術科学大学 (27) | 香川大学 (1) |
| 金沢大学 (3) | 愛媛大学 (2) |
| 福井大学 (7) | 高知大学 (1) |
| 山梨大学 (1) | 九州大学 (2) |
| 信州大学 (1) | 九州工業大学 (2) |
| 岐阜大学 (9) | 佐賀大学 (2) |
| 名古屋大学 (1) | 熊本大学 (4) |
| 豊橋技術科学大学 (46) | 琉球大学 (1) |
| 三重大学 (5) | |
| 京都工芸繊維大学 (12) | |

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 公立 東京都立大学 (1) | 私立 東京都市大学 (1) |
| 滋賀県立大学 (1) | 立命館大学 (12) |
| 福知山公立大学 (1) | 大阪芸術大学 (1) |
| 兵庫県立大学 (1) | 関西大学 (1) |
| 北九州市立大学 (1) | 近畿大学 (1) |
| | 神戸芸術工科大学 (2) |
| | サイバー大学 (1) |
| 国立 舞鶴高専専攻科 (83) | 私立 舞鶴高専専攻科 (1) |
| 松江高専専攻科 (1) | 奈良高専専攻科 (1) |
| | 近大高専専攻科 (2) |

■ 専攻科修了生

- | |
|-------------------------|
| 国立 東北大学大学院 (1) |
| 北陸先端科学技術大学院大学 (2) |
| 筑波大学大学院 (2) |
| 長岡技術科学大学大学院 (1) |
| 名古屋工業大学大学院 (2) |
| 豊橋技術科学大学大学院 (1) |
| 大阪大学大学院 (1) |
| 奈良先端科学技術大学院大学 (8) |
| 神戸大学大学院 (3) |
| 和歌山大学大学院 (1) |
| 公立 大阪公立大学大学院 (3) |
| 滋賀県立大学大学院 (1) |
| 兵庫県立大学大学院 (3) |

求人会社数の推移



7 学校行事

学生生活



入学式



高専体育大会



オープンキャンパス

4月

- 入寮式
- 入学式
- 新入生宿泊研修

5月

- 福井高専との交歓試合

6月

- 前期中間試験
- 球技大会
- 近畿地区高専体育大会

7月

- 近畿地区高専体育大会

8月

- 前期期末試験
- 夏季休業
- オープンキャンパス
- 全国体育大会

9月

- オープンキャンパス

10月

- 球技大会
- 英語デー
- 研修旅行

11月

- 高専祭
- 後期中間試験

12月

- キャリアセミナー
- 冬季休業
- 特別選抜(地域創生型)

1月

- 特別選抜(一般推薦型)

2月

- 学力検査選抜
- 後期期末試験

3月

- 卒業証書授与式
- 学年末休業
- 入学説明会



研修旅行



高専祭



卒業証書授与式

8 課外活動

課外活動



舞鶴高専には、バスケット部やサッカー部などの体育系クラブから、軽音楽部や吹奏楽部などの文化系クラブ、ロボコン部やプロコン部などの技術系クラブまで、幅広くクラブ活動を行っています。多くのクラブで、年間・日々の活動内容を学生自身が決めており、自律性をみがくことができます。

体育系クラブ

- 陸上競技部
- バスケットボール部
- バレーボール部
- ソフトテニス部
- 卓球部
- 柔道部
- 剣道部
- サッカー部
- 硬式野球部
- ハンドボール部
- バドミントン部
- 水泳部
- テニス部
- 弓道部
- 空手道部
- フリークライミング部

文化系・技術系クラブ

- 創造技術研究会 (ロボコン部)
- プログラマーズコミュニティ部 (プロコン部)
- デザコン部
- 自動車部
- アマチュア無線部
- HANDMADE部
- 吹奏楽部
- 軽音楽部
- 華道部
- 文学研究会(同好会)

ロボコン部



プロコン部



デザコン部



9

学生寮

寮生活



■ 本校の学寮「鶴友寮」は、高専の中でも最大規模で、全国から学生を受け入れ可能です。

学生全体の約7割にあたる約580名が寮生活を送っています。入寮した学生は、定められた日課や規則に従って集団生活を送りながら、勉学や課外活動に励んでいます。7棟ある寮の玄関から校舎までの通路には屋根がついていて、雨の日でも傘なしで登校できます。別々の環境にいた大勢の学生が集団で生活するには、自己管理ができるようになるとともに、ひとりでは難しいことをお互いに助け合い高め合うことが不可欠です。学寮での集団生活は、人間性・協調性・社会性を身につけ、「自律した技術者」へ成長していく拠点となっています。

学生寮には、居室の他に食堂、ラウンジ、洗濯室、浴場・シャワー室、補食室などがあります。居室には、勉強机・ベッド・保管庫（もしくはロッカー）が備えつけられています。

■ 令和7年4月 寮生数

(単位：人)

	男性 (2・3号館、5号館東、 6・7号館)	女性 (1・4号館、 5号館西)	計	入寮率
1年生	108	34	142	86%
2年生	119	34	153	88%
3年生	91	29	120	86%
4年生	70	23	93	59%
5年生	64	5	69	58%
計	452	125	577	



居室

■ 寮生の日課表

授業日

7:00	
7:20	起床 洗面・清掃
7:30	点呼
8:30	朝食
8:40	登校
8:50	SHR
12:00	授業
12:55	昼食
16:05	授業
19:30	夕食 部活動・自由時間
20:50	自習時間
21:00	点呼
23:00	清掃・自由時間
	消灯・就寝

入浴

学生寮の年間行事

※ 年度によって開催が前後するイベントがあります。

- 4月 入寮式、新入生歓迎会、寮生総会
- 5月 学寮防災訓練、給食検討委員会
- 6月 栄養講座
- 8月 オープンキャンパス・学寮公開
- 11月 給食検討委員会
- 12月 寮生総会、次年度入寮説明会(在校生向け)、クリスマスイベント、大掃除
- 2月 大掃除



新入生歓迎会



七夕イベント（企画イベント）



力餅大会（企画イベント）



新入生歓迎会

10 施設・センター

詳しくはこちら



学術情報センター

図書館と情報科学センターの運営を行っています。

本校における教育・研究の推進を支援するとともに、本校の広報および学外との学術情報の交流と地域文化の発展に寄与することを目的に活動を行っています。

図書館 開架閲覧室、AVコーナー、パソコンコーナーを備えています。

約9万4千冊の蔵書を利用に供しており、書籍・雑誌だけでなく、AVコーナーではDVDを視聴できます。さらに、パソコンを利用しての図書の検索や、新聞記事データベースの閲覧も可能です。

開館時間 月～金 8:30～21:00
土 13:00～18:00 日・祝 休館



閲覧室

情報科学センター

情報科学に関する教育・研究の推進及び学外との技術交流の中心的役割を果たします。

主に教育用電子計算機システムと校内サービシステム、および基幹情報ネットワークの管理と運用を行っています。教育用電子計算機システムとして、本校内の2演習室に合計100台の Windows端末が教育用端末として設置されています。基幹情報ネットワークとして、高速ネットワーク環境や無線LAN環境を提供しています。基幹情報ネットワークは学術情報ネットワーク (SINET) と専用線で結ばれています。



演習室

教育研究支援センター

教育・研究に関する技術支援を行っています。

本校の各部門・学科、学術情報センター及び地域共同テクノセンターが行う教育・研究に関し、技術に係わる専門的業務を組織的かつ効率的に支援するほか、地域との連携並びに社会貢献活動を行っています。

実践教育を重視する本校では、特に実験実習や卒業研究などで、教員と共に学生を厚くサポートしています。



実習工場での工作実習

実習工場 教育用の基礎的工作機械に加え、最新鋭の工作機械も設置されています。

機械工学科や電子制御工学科の学生が工作実習の授業で利用したり、自動車部や創造技術研究会などのクラブに所属する部員や高専祭活動に参加する学生などがなどさまざまなものづくりで利用したりしています。実習教育を受けていない学生のために、安全講習や工場利用についての講習会も行っています。

地域共同テクノセンター

地域や企業連携を推進し、公開講座や出前授業の運営を行っています。

地域産業界の共同研究や技術交流を推進するとともに、公開講座・出前授業の実施により舞鶴高専の教育資源を地域に還元しています。研究推進の一環として、舞鶴高専の教員の研究・技術シーズ集の発行や外部資金獲得に関わる業務、産学連携活動推進のための「舞鶴高専地域テクノアカデミア」の運営を行っています。

また、地域共同テクノセンターの下に社会基盤メンテナンス教育センター (iMec)、ナノテクノロジー教育センター (ntec)、地域エネルギー・防災教育センター、スタートアップ人材育成センターを置き、技術者のリカレント教育や課題解決力のある技術者教育を進めています。



出前授業の様子

社会基盤メンテナンス教育センター (iMec) インフラの維持管理技術に特化した人材育成を行っています。

インフラの維持管理に関する実践的な教育システムを構築し、全国の高専生や地方自治体職員、民間技術者などを幅広く受け入れ、現場に密着した教育センターとして、維持管理技術に特化した人材育成を行っています。

スタートアップ人材育成センター アントレプレナーシップ教育と「ものづくりラボ」の運営を行っています。

地域課題を解決するアントレプレナーシップ人材の育成を目的として、地域との連携を図るため、地域共同テクノセンターの下部組織として設置されています。以下のような設備を備えた「ものづくりラボ」の運営も行っています。

【設備】3Dプリンタや3Dスキャナ、カッティングマシン、ロボットアーム、レーザー加工機、CNCルータなどのデジタルファブリケーション機器

国際交流センター

本校と海外の高等教育機関、海外にある企業との交流を推進しています。

社会のグローバル化に対応する技術者教育を支援しています。活動内容は、学術交流協定の締結、短期・長期の海外留学支援、トビタテ！留学JAPAN等の奨学金獲得支援、協定校（タイ国キングモングット工科大学）とのインターンシップ相互派遣、教員の研究交流に対する支援、留学生と日本人学生との交流の促進などです。



SA Welcome Party

11 地域・企業連携

詳しくはこちら



出前授業・公開講座

主に近隣の小中学生等を対象に本校の教職員を派遣して体験型の授業を実施する出前授業と本校教職員が企画し募集して実施する公開講座を行っています。高専ならではの知識や専門性を生かした講座や授業を行っており、難しそうな授業も対象者に合わせてわかりやすい内容で用意しています。

また、多くの授業・講座が自分の手で何かを作るといった体験型で楽しい内容となっております。そのような体験を通して子供達の探求心や観察力をはぐくみ、ものつくりのよろこびや感動を与えていきたいと考えています。



出前授業の様子

受託研究・共同研究

民間企業等と共同して研究活動を行うことも本校の重要な職務であり、以下の2種類があります。

【受託研究】 特定の研究の委託を受けて本校教員が研究を実施し、その成果を委託者に報告するもの。

【共同研究】 本校の教員と民間企業等の研究者が共通の課題について研究を行うもの。

いずれも、民間企業等からの求めに応じて、民間企業等と本校が契約を締結したうえで、研究を実施し、経費は原則として企業等の負担となります。

地域テクノアカデミア

地域の企業との交流を深め、地域社会の発展と振興を支援し、地域の企業に本校の教育と研究を支援していただくために、平成25年度に設立されました。

産学連携活動推進のために、以下のような活動を行っています。

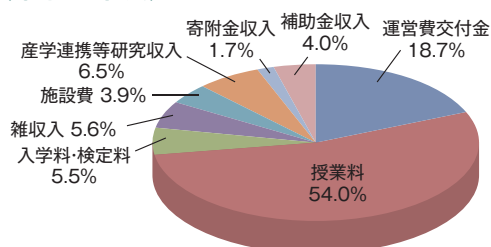
- 毎年総会・役員会を開催
- 随時本校の情報をご提供
- 会員企業様から、本校の授業や講演会に講師を派遣
- 本校教員による会員企業様向けの講演会の実施
- 会員企業紹介冊子の作成
- 企業見学会の実施



会員企業紹介冊子の配布

12 収入支出額

収入(令和6年度)

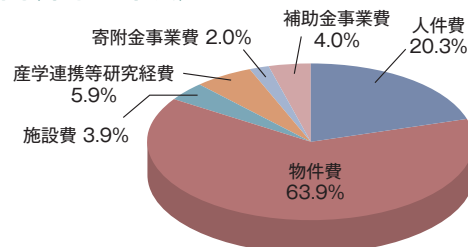


収入額

(単位：百万円)

内 訳	金 額	内 訳	金 額
運営費交付金	63	産学連携等研究収入	22
授業料	181	寄附金収入	6
入学金・検定料	19	補助金収入	13
雑収入	19	合 計	336
施設費	13		

支出(令和6年度)



支出額

(単位：百万円)

内 訳	金 額	内 訳	金 額
人件費	69	寄附金事業費	7
物件費	215	補助金事業費	13
施設費	13	合 計	337
産学連携等研究経費	20		

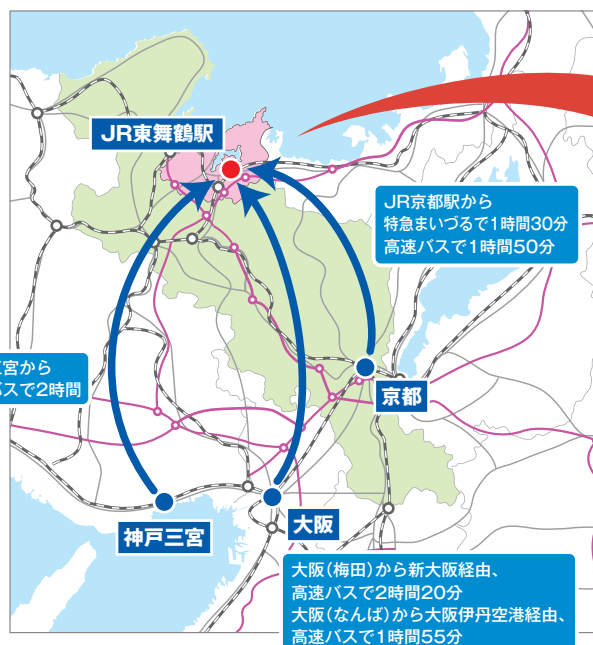
※外部資金を含み常勤人件費を除く

※単位未満を四捨五入のため、合計と内訳が一致しない場合がある

学校配置図



JR東舞鶴駅へのアクセス



舞鶴高専へのアクセス



舞鶴高専公式マスコットキャラクター
「コウちゃん」

独立行政法人 国立高等専門学校機構

舞鶴工業高等専門学校

National Institute of Technology (KOSEN), Maizuru College

〒625-8511 京都府舞鶴市字白屋234番地
<https://www.maizuru-ct.ac.jp/>

電話 (0773) 62-5600 ダイヤルイン
62-8861 総務課 (総務係)
62-8862 総務課 (地域連携・研究推進係)
62-8871 総務課 (財務係)
62-8881 学生課 (教務係)

FAX (0773) 62-5558 総務課 (総務係)
62-8879 総務課 (財務係)
62-8889 学生課 (教務係)



舞鶴高専
公式ウェブサイト